

平成 17 年度 第 2 回 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク PEPNet-Japan
関係者会議 議事要旨

日 時： 平成 17 年 10 月 9 日（日） 10:00～15:00

場 所： 筑波技術大学大会議室（茨城県つくば市天久保 4-3-15）

・ 報告事項

1 . 平成 17 年度事業中間報告

- 1) 日本版 Tip シート作成事業
- 2) 講義保障者養成技術教材作成事業
- 3) 講義保障システム構築・運営マニュアル作成事業
- 4) その他

NTID テクノロジーシンポジウム

SCS 利用研修

NETAC Tip シート和訳版

第 2 回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告書

特殊教育学会自主シンポジウム

聴覚障害学生支援担当者研修セミナー

・ 協議事項

1 . 平成 18 年度事業計画の検討

- 1) PEPNet 全米大会 2006 への参加
- 2) アメリカ視察報告会
- 3) 特殊教育学会自主シンポジウム
- 4) 第 2 回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム
- 5) 科学研究費補助金申請
- 6) 新規事業の取り扱い
- 7) 新規加盟大学の取り扱い
- 8) 平成 18 年度予算案
- 9) その他

参加者： 宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター 松崎丈氏

関東聴覚障害学生サポートセンター 倉谷慶子氏 / 吉川あゆみ氏 / 阿部めぐみ氏

メディア教育開発センター 広瀬洋子氏 / 大倉孝昭氏

群馬大学 金澤貴之氏

愛知教育大学 岩田吉生氏

日本福祉大学 藤井克美氏

同志社大学 土橋恵美子氏

広島大学 田中芳則氏

愛媛大学 原田美藤氏

ロチェスター工科大学副学長・NTID 学部長 T. Alan Hurwitz 氏

PEN-International 本部 代表 James J. DeCaro 氏

PEN-International 本部 コーディネーター William Clymer 氏

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター長 小林庸浩

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター支援交流室長 岡本明

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター支援交流室聴覚系WG代表 根本匡文

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター支援交流室聴覚系WG 三好茂樹

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター支援交流室聴覚系WG 石原保志

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター支援交流室聴覚系WG 河野純大

筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター支援交流室聴覚系WG 白澤麻弓

通訳者：日英通訳 2人

ASL通訳 1人

手話通訳 関東聴覚障害学生サポートセンター 2人

事務局補佐員：筑波大学大学院人間総合科学研究科 高山亨太

筑波大学第二学群人間学類 有海順子

開会に先立って、根本筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター支援交流室聴覚系WG代表より、第1回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムが盛大に開催されたことに対して、関係者の方々の協力を感謝の意が述べられた。

また、James J. DeCaro PEN-International 代表より、これまで PEPNet-Japan の活動が非常に精力的に行われていることに対して感謝の意が表されるとともに、今後も PEPNet-Japan の活動に対し PEN-International としてあらゆる支援を提供していく意志が伝えられた。

加えて、白澤事務局担当より、第1回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムの参加者数が合計 164 名であったことおよびその内訳（一般参加者 97 名 / 連携大学・機関 24 名 / アメリカ視察団 4 名 / 情報保障者 19 名（手話通訳者 6 名 + パソコン要約筆記者 11 名 + 日英通訳者 2 名） / スタッフ・関係者 20 名）が報告された。

・報告事項

1. 平成 17 年度事業中間報告

1) 日本版 Tip シート作成事業

松崎日本版 Tip シート作成事業代表(宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター)より、本事業の中間報告と今後の予定について、資料に基づき以下の報告がなされた。

目的

NETAC作成 Tip シートに基づき、初めて聴覚障害学生を受け入れた大学のために必要な知識や情報を提供するための教材を作成する。

方針

- ・聴覚障害とは何か、高等教育とは何かといった各トピックごとに1枚ずつのシートを作成し、各校等教育機関において手軽に配布できることを目指す。
- ・掲載するトピックはNETACのものを基に日本の状況に合わせて選定し、いずれもその道の第一人者に執筆を依頼する。
- ・作成されたシートは Web 上で無料で配布する。

現在の進捗状況

7月の事業運営会議において、Tipシートとして作成すべきトピックを選定した。この際、聴覚障害学生を受け入れた大学が支援を実施する際に必要な内容と、その後追加で知った方がよい情報の二つに段階を分け、トピックを整理することとした。

このようにして整理したトピックのうち、特に中心的なテーマについて試行的に執筆を依頼し、サンプル版として3枚のシートを第1回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムにおいて配布した。

今後の計画

サンプル版 Tip シートを基に、デザインや情報量、文の内容について関係機関から意見を収集し、調整した後、特に必要と思われるトピックから段階的に作成に移っていききたい。

これに対し、広瀬メディア教育開発センター助教授より、作成した Tip シートはシートのみを Web 上に掲載するのではなく、付加情報としてビデオクリップなどの視覚教材もあわせて提示する形にしてはどうかとの提案がなされた。

2) 講義保障者養成技術教材作成事業

太田講義保障者養成技術教材作成事業代表(静岡福祉大学)に代わり、吉川関東聴覚障害学生サポートセンター事務局員より、事業の中間報告と今後の予定について、資料に基づき報告がなされた。

目的

各大学における情報保障者の養成に資するため、情報保障者養成カリキュラムおよび教材の作成を行う。加えて、全国の複数の大学においてこれらを用いた養成講座を実施する。具体的な成果物のイメージとしては以下のようなものがあげられる。

- ・各種情報保障手段に関する解説
- ・情報保障者養成講座カリキュラム
- ・情報保障者養成のための DVD 教材
- ・養成講座開催に必要な各種印刷物サンプル(掲示物、レジュメ等)

また、実施する講座を情報保障者の養成を目的とするか、指導者の養成とするかについては現在検討中である。

現在の進捗状況

各大学・機関で行っている情報保障者の養成講座について情報収集をするとともに、現在高等教育機関で用いられている各種情報保障手段の特性およびこれらを用いる際に必要な知識・情報について整理を行った。詳しい内容は、以下の通りである。

- ・情報保障を行うにあたって大学側、聴覚障害学生側、通訳者側が確認すべき事項
- ・各種情報保障手段の比較および評価
- ・語学、ゼミ、実習などの特殊分野における情報保障
- ・先端技術を活用した情報保障
- ・ノートテイク養成カリキュラムの整理

今後の計画

現在収集している事例データの整理・分析に基づき、情報保障者養成カリキュラムの内容を検討するとともに、具体的なモデル養成講座の対象および内容・実施方法について検討していきたい。

これに対し、James J. DeCaro PEN-International 代表より、情報保障者の養成カリキュラムについては、広範囲に情報が提供できるよう、オンラインでの講座実施を検討してはどうかとの提案がなされた。これに対し、広瀬メディア教育開発センター助教授および大倉メディア教育開発センター客員教授より、e-learning の観点から協力可能であるとの意見が述べられ、具体的な教材作成の方法について今後検討を進めていくこととなった。

3) 講義保障システム構築・運営マニュアル作成事業

金澤講義保障システム構築・運営マニュアル作成事業代表(群馬大学)より、事業の中間報告と今後の予定について、資料に基づき、報告がなされた。

目的

初めて聴覚障害学生を受け入れる大学において、学内で聴覚障害学生支援体制を構築していくための指針となるマニュアルの作成を行う。

現在の進展状況

現在の大学における支援体制の問題点について整理し、支援体制モデルに組み込むべき項目を検討した。この結果、窓口の設置形態、学内組織内での位置づけ、予算の獲得、障害学生支援室の確保、コーディネーターの配置、学生ボランティアの確保等が重要な問題としてあげられ、これらについて各大学の情報を収集していくこととなった。

ただ、事業担当メンバーが少なく、担当者の負担が大きいため、全学的組織としてサポートに取り組んでいる方々の協力を得たい。

今後の予定

各大学がどのようにして情報保障システムを構築していったかについて、関係大学・機関を中心に事例を収集し、その分析を行う。現在は関東聴覚障害学生サポートセンターが外部組織として大学内に支

援体制を構築していった過程についての情報が得られているが、他大学・機関についても引き続き事例収集を続け、これらの情報を基に、来年 10 月を目処にマニュアル作成を行いたい。

これに対し、田中広島大学助教授、岩田愛知教育大学講師より、本事業への協力が可能との意志が示された。また、白澤事務局担当より、以上の 3 事業に関連する資料を電子化してサイト上にアップしているため、参考にしてほしい旨の説明が述べられた。

4) その他

白澤事務局担当より、今年度行ってきた事業(~)に関する報告がなされた。加えて、広瀬メディア教育開発センター助教授より、12 月に実施予定の聴覚障害学生支援担当者研修セミナー()について準備の進行状況ならびにプログラムの内容に関する案内がなされた。詳しい内容は以下の通りである。

NTIDテクノロジーシンポジウムへの参加

NTID で行われるテクノロジーシンポジウムに参加するため、6 月 23 日から 7 月 1 日の日程で PEPNet-Japan より 3 名(白澤事務局担当、河野筑波技術大学助教授、太田福岡教育大学教授)が渡米した。シンポジウムに先立って開催された PEN-International ビジネスミーティングにおいて、PEPNet-Japan の昨年度の活動について報告を行い、我々の取り組んできた活動に対して PEN-International 本部および各国参加者より多大な賞賛を受けた。

SCS利用研修

6 月 23 日に開催されたメディア教育開発センターSCS 利用研修において、根本筑波技術大学教授より PEPNet-Japan の活動に関する発表(「聴覚障害学生支援ネットワークの構築に向けて」)を行った。

NETAC Tipシート和訳版

第 2 回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察参加者である平井静岡福祉大学教授のご尽力により、NETAC Tip シートの和訳版が作成された。完成原稿は PEPNet-Japan サイト内で、無料で公開するとともに、同氏の自主出版により書籍(「え！わたしのクラスにろう学生が？！難聴学生が？！ろう・難聴学生を受け持つ教師のためのチップシート」平井利明(静岡福祉大学) 監訳・著 / ムイスリ出版)としても公開された。

第 2 回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告書

第 2 回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察の成果として、115 ページにわたる報告書が作成された。同報告書は当初第 1 回聴覚障害学生高等教育支援アメリカ視察報告書との合本にて発行する予定であったが、枚数超過のためひとまず第 1 回視察報告書とは別に作成を行った。今後、第 2 回視察報告書の中から重要部分を抜き出し、第 1 回視察報告書の中に情報を付加した形に編集して製本を行う予定である。

特殊教育学会自主シンポジウム

9 月 23 日に金沢大学にて開催された第 43 回日本特殊教育学会において、自主シンポジウム「聴覚障害学生高等教育支援ネットワークの構築に向けて」を実施した。根本筑波技術大学教授および白澤

事務局担当が企画者となり、金澤群馬大学助教授、田中広島大学助教授、百合野同志社大学教授の話題提供をもとに、2年後あるいは10年後に我々が目指すべき支援のあり方について討議を行った。参加者は約20名と多くはなかったが、現在全国の聴覚障害学生支援において核となっている大学からの参加が得られ、今後全国的なネットワークを構築していく上で必要な人脈の形成に大いに寄与できる会となった。

聴覚障害学生支援担当者研修セミナー

12月16日東京国際交流館においてメディア教育開発センター、筑波技術大学、日本学生支援機構の主催による聴覚障害学生支援担当者研修セミナーを実施する。セミナーの内容はいずれもPEPNet-Japan 連携大学・機関の先生方の協力によって構成されているため、関係方面への周知を依頼したい。

・協議事項

1. 平成18年度事業計画の検討

平成18年度事業計画として以下の8点について協議が行われた。

1) PEPNet全米大会2006への参加

James J. DeCaro PEN-International 代表より、PEPNet全米大会2006の概要および視察日程について説明および提案がなされた。加えて、白澤事務局担当より参加者の募集方法について、日本からの招待8名のうち、筑波技術大学より2名、連携大学・機関より6名の参加者を募集していること、参加者の決定は資料に記載された条件に基づき事務局にて行う予定であること、10月末が締め切りであるため各大学・機関より積極的に応募してほしいことなどが説明された。

2) アメリカ視察報告会

根本筑波技術大学教授より、PEPNet全米大会参加に合わせ、昨年度同様帰国後に視察報告会を実施したい旨の報告がなされた。また、実施の形態として今年度同様、関東聴覚障害学生サポートセンター主催「聴覚障害者と高等教育」フォーラム内で行う可能性もあるが、詳細については中島関東聴覚障害学生サポートセンター事務局長との相談の上決定することが確認された。

3) 日本特殊教育学会自主シンポジウム

根本筑波技術大学教授より、来年度群馬大学で開催される第44回日本特殊教育学会において、今年度同様自主シンポジウムを企画したい旨の提案がなされ、異議なく承認された。また、企画は事務局中心に行い、話題提供等については関係大学・機関の協力をいただきたい旨の依頼がなされた。

4) 第2回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム

根本筑波技術大学教授より、前日に開催された第1回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムに引き続き、来年度は第2回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウムを開催する方向で会場校との相談を進めていきたい旨の提案がなされた。加えて白澤事務局担当より、第2回シンポジウムの会場校として現在事務局より日本福祉大学に打診中である旨が報告され、これについて藤井日本福祉大学教授より、現在学内にて前向きに検討している所であるとの報告がなされた。また、会場校と事務局の間の役割分担については、今後両者間で調整を図っていくこと、および企画内容の検討にあたっては連

携大学・機関の協力を得て、全体で調整を進めていく方向で承認がなされた。

この他、白澤事務局担当より、現在取り組みを続けている3事業については、来年度も引き続き継続・発展的に事業を実施し、来年秋の第2回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム開催時期を目的に成果を出せるよう善処したい旨の計画が示され、異議なく承認された。

5) 科学研究費補助金申請

金澤群馬大学助教授より、来年度の科学研究費補助金の申請について、早急に研究代表者を募りたいこと、およびテーマについては現在実施している3事業との関連で設定する予定し、これに基づき研究分担者を募集したい旨の提案がなされ、異議なく承認された。加えて、研究代表者については岡本筑波技術大学教授および河野筑波技術大学助教授が担当可能であることが確認され、事務局と研究代表者を中心に内容の詳細を検討していくことが決定された。

この他、広瀬メディア教育開発センター助教授より、オンライントレーニングなどメディア教材の作成に必要な予算については、メディア教育開発センターでの助成が可能であること(1月申請)、大倉メディア教育開発センター客員教授より、研究の枠にあてはまらない事業については、三菱財団の助成が有用であること(1月申請)との情報が提供された。

6) 新規事業の取り扱い

根本筑波技術大学教授より、来年度に実施すべき新事業について企画案があれば募集したい旨の提案がなされた。これに対する協議の結果、来年度は現在実施している3事業の推進に専念し、新たな事業の展開は、現在の事業が一段落する来年10月以降に実施する方向で一致した。

7) 新規加盟大学の取り扱い

根本筑波技術大学教授より、現在複数の大学・機関よりPEPNet-Japanへの加盟希望が寄せられており、これらの扱いについて検討したい旨の提案がなされた。この件について、根本筑波技術大学教授からは、現時点では昨年度より着手し始めた事業がまだ継続中であり、本ネットワークの体制も十分に固まっていないため、3事業の成果が期待される来年秋までは現行の体制を維持したいとの意向が示され、異議なく承認された。また、来年秋以降の体制について、事務局としては一般に会員を募るとともに現在の関係者会議構成大学・機関を中心に運営委員会を構成し、ネットワークの運営にあたっていく方向で検討をしているが、これらの体制について次回関係者会議にて詳細を検討したいため、各大学・機関において意見を収集してほしい旨の依頼がなされた。

加えて、白澤事務局担当より、運営体制そのものの見直しは来年秋に行うが、それまでは移行期間として現在加盟を希望している大学についてオブザーバーなどの形で事業に参加いただくとともに、一般の大学関係者に対しては、メーリングリストやニュースレターなどの発行を通し、情報発信を行っていく意向が示され、異議なく承認された。

8)平成 18 年度予算案

白澤事務局担当より、平成 18 年度予算案に関する説明がなされた。これに関し、James J. DeCaro PEN-International 代表からは、現時点において予算の決定を確約することはできないが、妥当な額であると考えられるため、申請を認める方向で進めていきたいとの見解が示された。

9)その他

石原筑波技術大学教授より、来年度の PEPNet-Japan の活動のひとつとして、就職に関する支援を行うことはできないかとの提案がなされた。これに対して白澤事務局担当より、継続的な活動は難しいかもしれないが、各大学・機関を会場として聴覚障害学生の就職に関するセミナーを開催するなど時期を区切った形での活動なら可能であるとの意向が示され、事務局との間で詳細を検討していくこととなった。また、広瀬メディア教育開発センター助教授より、SCS を用いてセミナーを全国の大学に発信することが可能との情報も提供された。

最後に根本筑波技術大学教授より、筑波技術大学の開学にともない、従来の「障害者高等教育センター」が新しく「障害者高等教育研究支援センター」に、「視覚・聴覚に障害のある学生の大学教育に関する「相談・支援室」が「支援交流室」にそれぞれ改組された旨の説明がなされ、岡本筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター支援交流室室長より挨拶がなされた。

また、James J. DeCaro PEN-International 代表より、PEPNet-Japan の今後ますますの活躍を大いに期待しており、今後の活動に対して PEN-International としての支援を惜しまないとの意向が伝えられた。

さらに、小林筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター長からは、本会議が実り多いものになったことに対し、参加者の方々への感謝の意が述べられるとともに、今後の本ネットワークの全国的な広がりを願いたいとの挨拶が行われた。

第3回関係者会議： 1月28日(土) 日本財団にて開催予定